

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 86 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日 時：2021年5月13日（木）13:30～15:50

2. 会議方式：Web 会議

3. 出席者：（敬称略）

（出席委員）高橋部会長，加藤副部会長，田村幹事，浅野，片岡，久野，小松原，坂下，澤田，
白井，高橋（秀），武田，立川，林，藤田，元辻，柳原，山本（正）（18名）

（代理出席）大畑 仁史（原子力安全推進協会/高橋（浩）委員）（1名）

（欠席委員）大間，斉藤，佐々木，中島，山本（武）（5名）

（常時参加者）浅見，川村（2名）

（説明者）【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】梅原幹事，柏木委員

【LLW 放射能評価分科会】大畑幹事

【ウラン・TRU 取扱施設クリアランスレベル検認分科会】鈴木幹事，横山委員
（延べ5名）

（事務局）田老，牧野，正岡（3名）

4. 配付資料

- FTC86-0 第 86 回原子燃料サイクル専門部会議事次第（案）
- FTC86-1 第 85 回原子燃料サイクル専門部会議事録（案）
- FTC86-2 人事について
- FTC86-3 “使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：201X” に関する
公衆審査結果について
- FTC86-4-1 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－” 標準原案
に関する決議投票の結果について（再投票）
- FTC86-4-2 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－” 標準原案
の標準委員会報告に関するメール審議の結果について
- FTC86-4-3 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－（案）の原子
燃料サイクル専門部会 書面投票コメント一覧表（再書面投票及びメール審議反映）
- FTC86-4-4 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－” 標準原案
に関する決議投票の結果について
- FTC86-4-5 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－（案）の
標準委員会 書面投票ご意見一覧表
- FTC86-4-6 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－（案）の
標準委員会 書面投票ご意見への対応の変更点比較表
- FTC86-4-7 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法－ドラム缶形態編－” 標準改定
原案
- FTC86-5 中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順の NRA 技術評価対応者
について（提案）
- FTC86-5-1 2021 年 5 月 12 日規制委員会資料（民間規格の技術評価の実施に係る計画について）
- FTC86-6-1 “ウラン取扱施設におけるクリアランスの判断方法：202X” 標準改定案（新旧対比表）
- FTC86-6-2 等価法についての説明
- FTC86-7-1 標準委員会の活動方針の確認と基本戦略にかかる検討
- FTC86-7-2 学協会規格に対する事業者計画への対応方針の検討（案）
- FTC86-7-3 原子燃料サイクル専門部会標準策定 5 か年計画（2021 年度版）

- FTC86-8 技術評価運営細則
FTC86-9 分科会活動状況

参考資料

- FTC86-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
FTC86-参考 2 原子燃料サイクル専門部会出席実績

5 議事内容

事務局から開始時、委員 24 名中、18 名が出席しており、成立に必要な定足数（16 名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（FTC86-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事（FTC86-2）

事務局から FTC86-2 に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、専門部会委員退任等が確認され、審議の結果、専門部会委員選任等が決議された。

【専門部会】

1. 決議事項

(1) 委員再任

林 宏二	電気事業連絡会	2021.08～2023.07
大間 知行	日本原燃	2021.09～2023.08
片岡 秀哉	関西電力	2021.09～2023.08

【分科会】

○LLW 放射能評価分科会

1. 承認決議事項

(1) 委員選任

小澤 孝 日本原燃

2. 確認事項

(1) 委員退任

田中 雄司 日本原燃 2021.03.31

(2) 常時参加者登録承認

野崎 誠 中国電力

事務局から高橋部会長の任期満了に伴い、次期部会長を選出することとなったことから、専門部会長の互選を 14 日間の郵送による投票を実施したい提案があり、提案とおりに承認された。

(3) 【報告】（FTC86-3）

“使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：201X” 標準改定原案に関する公衆審査結果について

（担当：事務局）

事務局から FTC86-3 に基づき、題記標準改定原案に関する公衆審査の結果、ご意見がなかったことが報告された。

(4) 【報告・審議】 (FTC86-4-1～FTC86-4-7)

“浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法―ドラム缶形態編―”標準原案の当専門部会決議投票結果（再投票）及び受け付けた意見への対応、標準委員会中間報告に関するメール審議結果等、並びに標準委員会本報告後の決議投票結果及び受け付けたご意見への対応について

(担当：事務局，LLW 廃棄体等製作・管理分科会 梅原幹事，柏木委員)

事務局から FTC86-4-1 に基づき、題記標準原案に関する当専門部会決議投票（再投票）の結果、可決された旨、また賛成で4名の委員から意見があったこと、及び FTC86-4-2 に基づき、題記標準原案に関する当専門部会メール審議の結果、可決された旨、また賛成で1名の委員から意見があったこと、並びに FTC86-4-4 に基づき、題記標準原案に関する標準委員会本報告後の決議投票の結果、可決された旨、また賛成で2名の委員から意見があったことが報告された。引き続き LLW 廃棄体等製作・管理分科会 梅原幹事，柏木委員から FTC86-4-4，FTC86-4-5～FTC86-4-7 に基づき、当専門部会及び標準委員会で受け付けた意見への対応について説明があり、審議の結果、次回標準委員会に報告することが可決された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

C：規定と参考の附属書の分割に関しては、専門部会の書面投票でコメントとして提示したものであるが、今回の対応のような形で、一つの附属書内で明確にかき分けることに関して、賛成である。

C：既定と参考の附属書に分割することが好ましいと考える。これだけ、明確にかき分けられているのならば、附属書として分割しても、利用者の利便性も得られるのではないか。

A：分科会で何度も議論したが、やはり利用者の利便性を勘案すると一つにまとまっていた方が良いとの意見が多く、標準委員会の本報告でこの点を明確にご説明した上で、出された意見も1件であり、この形で標準委員会に報告しご意見をいただきたい。

C：分科会でこれまで何度も議論し、同様なご意見もあったが、一つの附属書に規定部分と参考部分をまとめる形式での意見が主体であった。

(5) 【審議】 (FTC86-5, FTC86-5-1)

L1 放射能評価標準の原子力規制委員会による技術評価に向けた対応について

(担当：事務局，LLW 放射能評価分科会 大畑幹事)

事務局から FTC86-5-1 に基づき、題記について報告があった。引き続き LLW 放射能評価分科会 大畑幹事から、FTC86-5-1 に基づき、題記技術評価の対応案についての提案と説明があり、審議の結果、特にコメント等なく、当該専門部会幹事を含め、対応者の選出について提案通り、次回標準委員会に報告することが可決された。

(6) 【報告】 (FTC86-6-1, FTC86-6-2)

“ウラン取扱施設におけるクリアランスの判断方法：202X”標準改定案中間報告及び今後の進め方について

(担当：ウラン・TRU取扱施設クリアランスレベル検認分科会 鈴木幹事，横山委員)

ウラン・TRU取扱施設クリアランスレベル検認分科会 鈴木幹事，横山委員から FTC86-6-1，FTC86-6-2 に基づき、題記標準改定案についての状況報告があった。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q1：今回中間報告という形で報告されたが今後標準委員会まで報告する中間報告なのか、現状ここまで改定が進んでいるという状況報告なのか？

A1：現状ここまで改定が進んでいるという状況報告である。

C1：国際基準について現在草案の形になっており、加盟国からコメントを募集している状況である。その締め切りが今年7月6日であり、その後、加盟国からのコメントの取り入れに関して検討が行われ、草案が最終版に近い形になるまで約1年かかると見られる。そういった状況を考慮すると FTC86-6-1 に示されているスケジュールは妥当と考える。

- Q2：FTC86-6-2 で説明のあった等価モデル法は学会誌等に発表されていてコンセンサスが得られた方法なのか状況を教えていただきたい。
- A2：等価モデル法は学会誌の方で複数回発表している。
- Q3：海外でも使用しているという事例はあるのか？
- A3：海外での発表等はありませんので国内外で初めての方法で検認を行うこととなります。
- Q4：FTC86-6-2 の 7 項に事例が示されており、その中で $i = 1 \sim 4$ で検量線を作成しているが、 $1 \sim 10$ で検量線を作成した場合と $1 \sim 4$ で検量線を作成した場合で誤差は違ってくるか？
- A4：誤差についてそれほど変わらない。極端に偏った線源が入った場合、多少はずれることが考えられるが基本的には違いは出てこない。
- C2：検量線の作り方等標準的なところも示す必要があると思うので引き続き検討していただきたい。
- 以上の質問以外に各委員の方から気づき点等があった場合は、直接幹事の方、もしくは事務局に連絡をしていただきたいということであった。

(7) 【報告】 (FTC86-7-1~FTC86-7-3)

標準委員会の活動方針の確認と基本戦略にかかる検討及び標準策定 5 年計画の公開について
(担当：事務局，原子燃料サイクル専門部会 田村幹事)

事務局から FTC86-7-1 に基づき、「標準委員会の活動方針の確認と基本戦略にかかる検討」状況について報告があった。引き続き原子燃料サイクル専門部会 田村幹事から FTC86-7-2 に基づき、事業者の標準にかかる見解に対する当該専門部会の方針（案）について説明があり、委員からの意見を頂くことになった。引き続き事務局から FTC86-7-3 に基づき、標準策定 5 年計画が前回の標準委員会（3 月 3 日開催）で承認され、HP にアップしたことが報告された。事業者の標準にかかる見解に対する専門部会からの方針について、紹介があった。

(8) 【報告】 (FTC86-7-1)

技術評価運営細則の制定について
(担当：事務局)

事務局から FTC86-7-1 に基づき、題記細則については、規制当局が標準を「技術評価」する際の標準委員会としての対応について規定したもので、前回の標準委員会（3 月 3 日開催）で承認され HP にアップしたことが報告された。

(9) 【報告】 (FTC86-8)

原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について
(担当：各分科会代表者等の関係者)

分科会の代表者から FTC86-8 に基づき、分科会の活動状況についての報告があった。

6 その他

次回は、2021 年 8 月 5 日（金）13:30 からの開催に決定した。

以上